

Ⅱ 分野別の状況

1 「安全」の確保

＜現状と課題＞

『安全』の確保については、生活環境に支障のある災害廃棄物の撤去や、二次災害防止のための防災施設等の応急的な復旧など、緊急に取り組む必要のある事業と本格復興の基盤づくりを中心に推進してきたところであり、平成23年度中間目標に対する進捗は56指標(88.9%)が「計画以上」、「順調」となっており、平成23～25年度(第1期)目標に対する進捗率が「80%以上」となっている指標は25指標(39.6%)となっている。

一方、災害廃棄物の処理は5月末現在で12.1%、「いわて復興インデックス」の津波防災施設の整備率は26.8%にとどまっているなど、災害廃棄物の処理や津波防災施設の整備は緒に就いたばかりである。

こうした中、県民の復興の実感を見ると、「復興意識調査」では、安全の確保に向けた津波防災施設の整備や、鉄道網の整備、放射能への安全対策に「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合が高くなっており、「いわて復興ウォッチャー調査」の結果では、安全なまちづくりの達成度は、「あまり達成していない」「達成していない」が8割を占めている状況にある。

今後、災害廃棄物について、まずは、復興資材としての活用やリサイクル等による県内処理を加速するとともに、県内外の自治体の協力のもと処理を促進する。

また、海岸保全施設・三陸復興道路・三陸鉄道等の着実な整備とともに、防災文化の醸成と継承などのソフト対策も進め、スピード感をもって災害に強いまちづくりに取り組んでいくことが必要である。

さらに、復興事業が本格化する中、専門技術を有する人材の不足が顕在化しており、円滑・迅速に復興事業を推進できる人材を確保する必要がある。

また、被災者一人ひとりの暮らしの再建やなりわいの再生の取組の前提となる復興のまちづくりの推進に関する各種情報を分かりやすく、きめ細かに提供し、事業主体と住民の相互理解と協働による取組を促進していく必要がある。

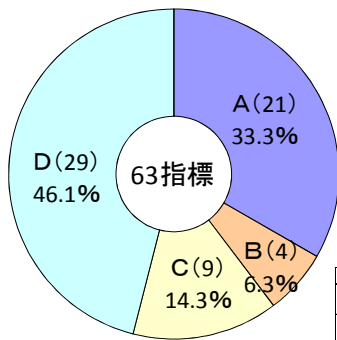
事業進捗

復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況（平成23年度）[平成24年4月26日公表]

合計72事業（再掲を含む。）に係る63の指標中、「第1期末目標」に対する進捗率は約40%が「80%以上」、また、「平成23年度中間目標」に対する進捗率では、7指標に「遅れ」が発生しています。

＜第1期末目標に対する進捗率＞

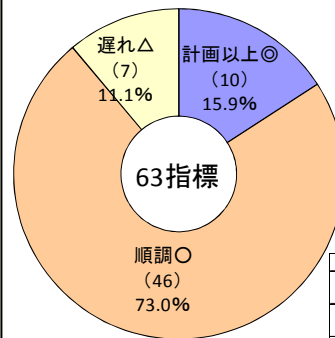
- ・「A」及び「B」（80%以上）25指標（39.6%）
- ・「C」及び「D」（80%未満）38指標（60.4%）



区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

＜平成23年度中間目標に対する進捗率＞

- ・「計画以上◎」及び「順調○」56指標（88.9%）
- ・「遅れ△」7指標（11.1%）



区分	対H23年度中間目標進捗率
計画以上(◎)	105%以上
順調(○)	105%未満 95%以上
遅れ(△)	95%未満 0%超
未実施(x)	0%

県民意識

いわて復興ウォッチャー調査（平成24年【第2回】）[平成24年6月21日公表]

○安全なまちづくりの達成度については、「あまり達成していない」が25.5%、「達成していない」が56.0%となっており、両者の合計は81.5%で前回の80.0%から1.5ポイント上がった。

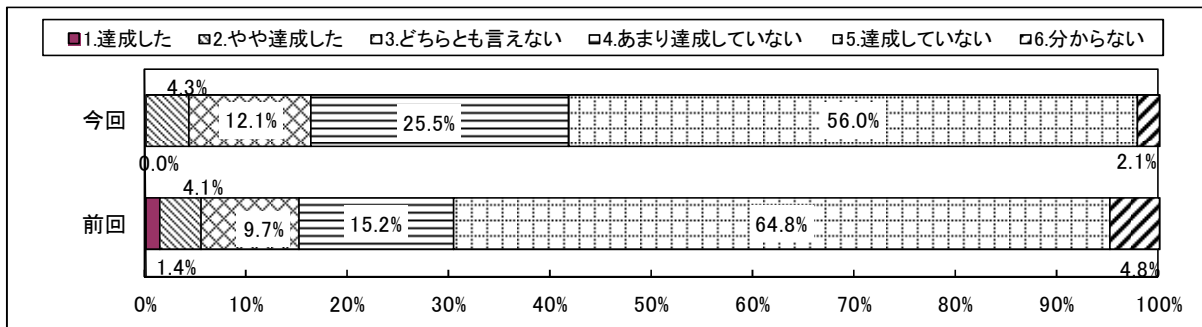
地域別では、沿岸北部、沿岸南部とも、前回に引き続き「達成していない」の割合が最も高い（沿岸北部31.9%、沿岸南部68.1%）。

○直近3ヶ月の進捗状況についても、「進んでいない」の割合が47.5%と最も高かった。

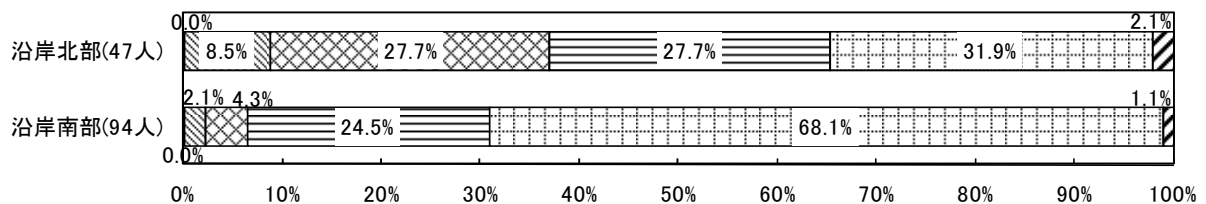
達成度や進捗状況を判断した理由については、がれきが少しずつ減っているとの回答もあるが、復興計画の遅れや防潮堤等ハード整備が進んでいないことへの不安に関する回答が多かった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度（震災以降における全体の達成状況）

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

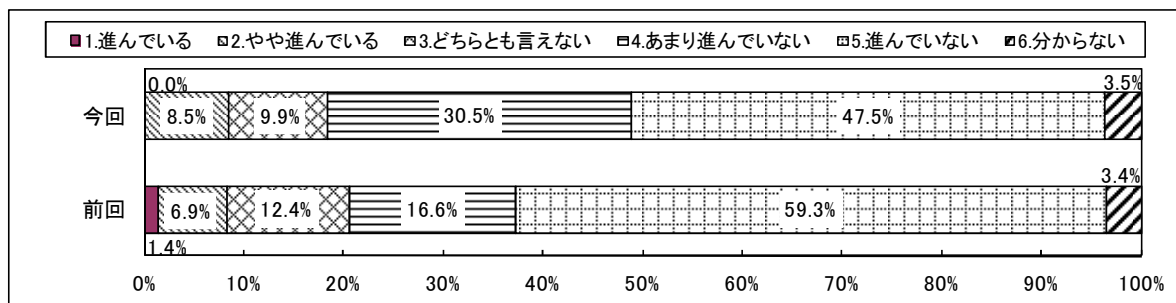


<地域別>

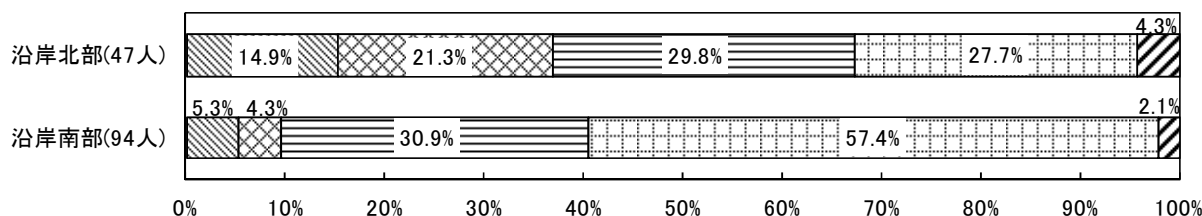


② 3カ月間（概ね3月から5月）の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の（3ヶ月間程度）災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



<地域別>



③ 回復度 (①)、進捗状況 (②) に関する理由[自由記載]

区分	理由 (要旨)
「2. やや達成した」 又は 「2. やや進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの配布等により避難区域が明確になったものと思われる (50 歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部) ・震災の教訓を生かし、地震で津波注意報が出たら、すみやかに周りが避難する人が多い (30 歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)
「3. どちらとも言えない」の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ガレキの撤去は進んでいる感じられる。道路も以前より走りやすくなった。堤防の補修も進んできている (30 歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部) ・防災訓練ってやっているのだろうか。自分の住んでいる地域で、津波が来たらどこに逃げれば良いのかがわからない。ただ高台を目指せば良いのか (50 歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)
「4. あまり達成していない」 又は 「4. あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸沿いの道路を通るだけでも、何の安全策もされていなくビクビクしながら通っています (30 歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部) ・大雨の時に、TVが映らない、下水道が機能しない、冠水して道路が通れない等、まだインフラの面で整備が進んでいない (30 歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・計画はあるようだが、どの程度進んでいるのか進捗状況がわからない (30 歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)

	<ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤が前のように整備されていないので、漁師が作業出る時、海難事故、海におちたり非常に危険な状況（60 歳以上 産業・経済・雇用関連 沿岸南部） ・被災した土地をどうするのか、防潮堤、線路、道路を上げるのか、又は前の場所に高い防潮堤を作るのか決まっていない（20 歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部）
「5. 達成していない」 又は 「5. 進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・高台移転も国、県、市の立場の違い、担当分野の線引が強く、はみ出ない気遣いからギクシャクして積極的な指導が少ない（60 歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部） ・環境未来都市に指定されたものの、動きが見られない。復興計画との関連性も不明で、市民はあまり期待していない（50 歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部） ・復興計画が発表になっていないので進捗状況はあまり進んでいないと思われ（40 歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部） ・都市計画が示され、住民説明会等も行われているが、具体的に実行されていくのはこれからである（50 歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部） ・防潮堤の修理も進んでおらず、第二堤防の話もあるが、位置とかもまだ決っていない（60 歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部） ・防潮堤等の計画はあるようだが、具体的には全く見えず、特に県が担当する防潮堤は予定地の用地交渉すらされていない（50 歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部） ・次に津波が来た場合は防潮堤もない現状では被害は免れないと毎日不安を感じながら生活している（40 歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部） ・動きが遅い。何をやるにも規制が多すぎて行政等の動きが遅々と進まない。大胆な規制緩和が必要と思われる（60 歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸北部）

注 1) 「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注 2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注 3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者
教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者
産業・経済・雇用関連：漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

「安全」の確保

I 防災のまちづくり

取組の基本的考え方

津波対策の基本的考え方（海岸保全施設・まちづくり・ソフト対策）を踏まえた多重防災型まちづくりにより、津波等の自然災害による被害を最小限に抑え、どのような場合でも人命と暮らしを守る安全で安心な防災都市・地域づくりを進める。また、住民の故郷への思いや地域の歴史、文化・伝統を踏まえた住民主体の新しいまちづくりを進める。

＜現状と課題＞

「防災のまちづくり」の分野においては、災害廃棄物の撤去、河川や海岸保全施設等の災害復旧事業、放射性物質に係る安全対策としての放射線量低減措置の取組支援やセミナー開催などを行ってきたところである、平成 23 年度中間目標に対する進捗は 44 指標（86.3%）が「計画以上」、「順調」となっているが、災害廃棄物の処理など 7 指標に遅れが生じている。なお、平成 23～25 年度（第 1 期）目標に対する進捗率が「80%以上」となっている指標は 25 指標（49.0%）である。

平成 24 年 3 月時点の津波防災施設の整備率は、「いわて復興インデックス報告書（第 2 回）」によると 26.8%にとどまっており、「復興意識調査」では 5 割強が「防潮堤や防波堤などの整備」に遅れを感じている。また、これまでに 2 度調査・公表した「いわて復興ウォッチャー調査」の結果においても、8 割強が「災害に強い安全なまちづくりに対する実感」について、「あまり達成していない」又は「達成していない」と回答している。

「防災のまちづくり」の取組に対する推進ニーズは、「復興意識調査」の復旧・復興に向けた優先施策の選択の中で「災害に強く安全で安心な暮らしを支える防災都市・地域づくり」の割合（53.9%）が最も高くなっていることや、復興計画の 3 つの原則に基づいた復興を実現するための具体的な取組に対する復興促進ニーズ度における「防潮堤や防波堤などの整備」が、29 項目中 4 番目と高いニーズを示していることに表れている。

さらに、多重防災型まちづくりを進めるためのソフト対策の重要性については、「復興意識調査」で 9 割弱の方が「震災の記憶を未来に語り継ぐための取組」を重要と考えていることから読み取れる。

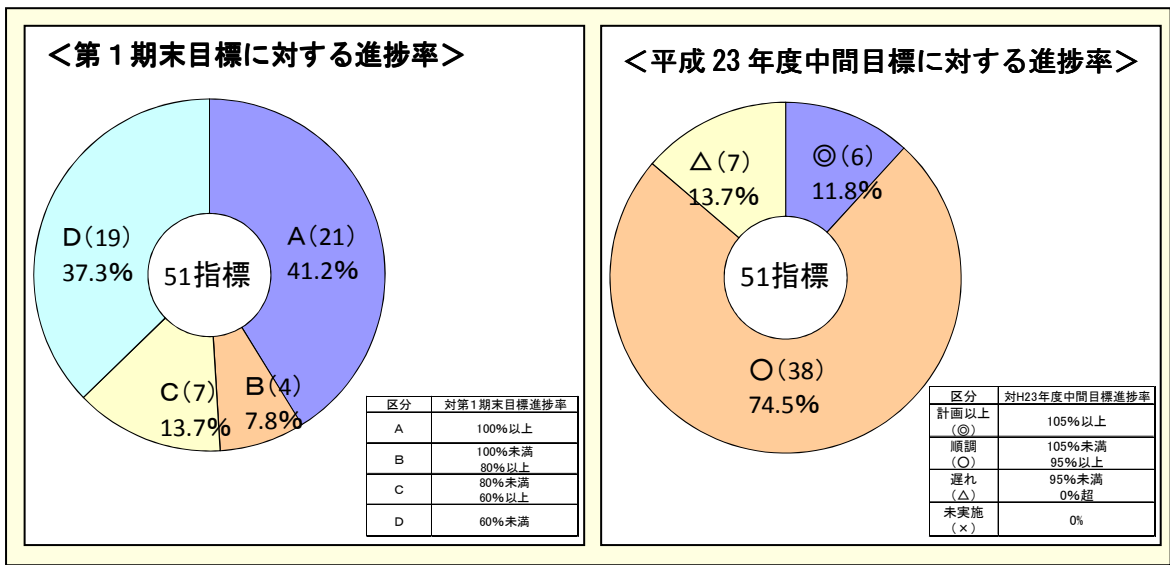
今後、防潮堤や防波堤など東日本大震災津波により被災した施設の早期整備や、東日本大震災津波を忘れないための「防災文化の醸成と継承」の取組等を推進し、安心して暮らせる多重防災型まちづくりを進めるとともに、市町村の復興まちづくりを支援することが必要である。

また、人命と暮らしを守るまちづくりの工程を分かりやすく示すとともに、その進捗状況をきめ細かに伝えることにより、住民主体のまちづくりの実現を図ることが必要である。

事業進捗

復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況（平成 23 年度）[平成 24 年 4 月 26 日公表]

- ① 第 1 期末目標の進捗率が「80%以上」は「堤防等の応急工事（河川等災害復旧事業（応急工事）」など 25 指標（49.0%）
- ② 平成 23 年度中間目標の進捗率では、「災害廃棄物の処理・処分（災害廃棄物緊急処理支援事業）」など 7 指標（13.7%）に遅れ



**主な
取組**

復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成24年6月）【平成24年6月21日公表】

◆災害廃棄物（がれき）の処理

- 生活環境に支障が出る災害廃棄物は平成23年7月末までに、おおむね移動を完了しました。平成24年5月末現在の撤去率は79.8%となっています。
- 処理については、平成26年3月末の完了を目標に実施しています。平成24年5月31日現在の処理率は12.1%となっています。

○沿岸市町村の災害廃棄物（がれき）処理の進捗状況（平成24年5月31日現在）

市町村名	がれき 推計量 (千t)	仮置場への 搬入量 (千t)	撤去率 (%) ※がれき推計量 に対する搬入量 の割合	処理量 (千t)	処理率 (%) ※がれき推計量 に対する処理量 の割合
洋野町	20	18	91.0	7	33.6
久慈市	95	95	100.0	29	30.4
野田村	176	176	100.0	8	4.4
普代村	11	11	100.0	7	64.5
田野畑村	77	72	93.4	6	8.1
岩泉町	57	41	71.9	0	0.0
宮古市	732	580	79.2	46	6.3
山田町	542	301	55.6	29	5.3
大槌町	483	447	92.6	25	5.1
釜石市	820	444	54.1	27	3.3
大船渡市	756	601	79.5	309	40.8
陸前高田市	1,482	1,404	94.7	146	9.9
計	5,250	4,190	79.8	637	12.1

※搬入量：市町村を通じて把握がなされた、仮置場へ搬入されたがれきの量。

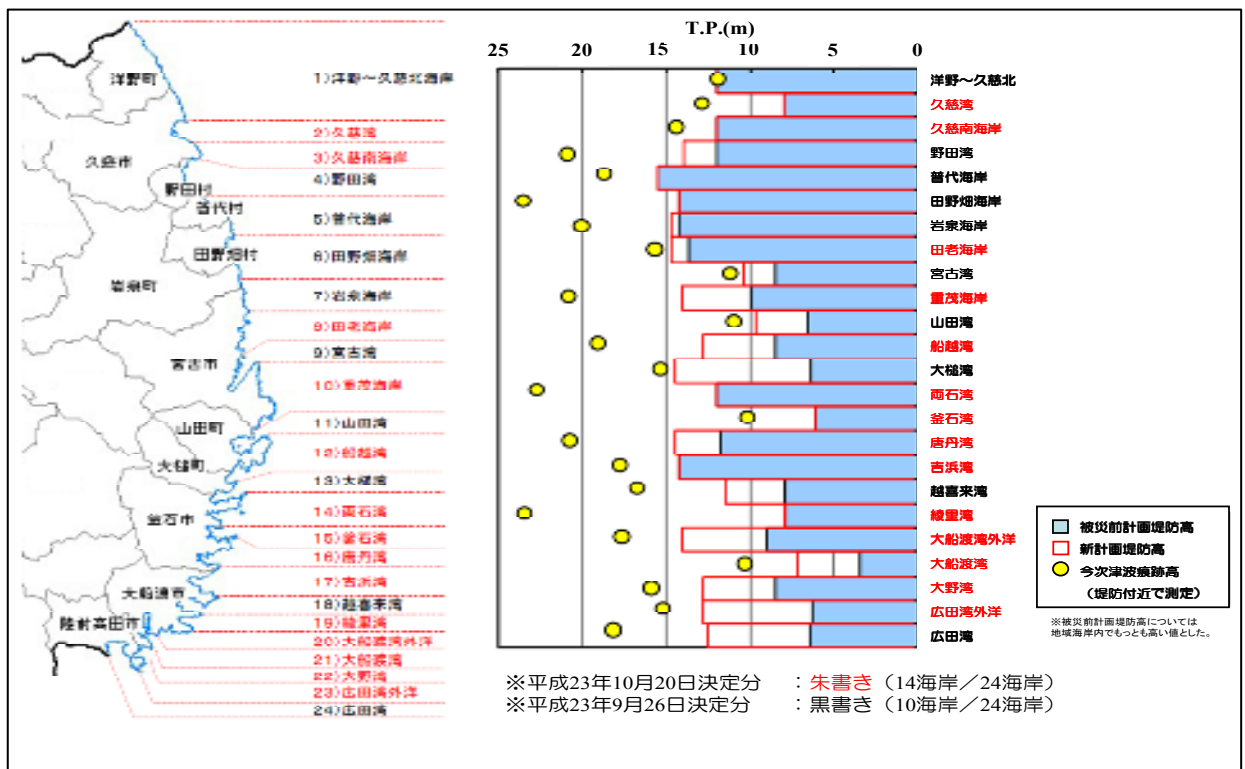
※処理量：有価売却、原燃料利用、焼却やセメント焼成、埋立処分等により処理されたがれきの量。

※端数処理により合計と一致しない場合がある。

◆海岸保全施設の復旧・整備

- 技術的根拠等専門的な知見に基づき、津波対策の方向性や海岸保全施設の整備目標等について検討するため、岩手県津波防災技術専門委員会を設置しました。
- 専門委員会での検討や市町村との意見交換及び国との協議を踏まえ、岩手県沿岸（24 地域海岸）における海岸堤防高さを平成 23 年 9 月 26 日（10 地域海岸）及び 10 月 20 日（14 地域海岸）に公表しました。
- 海岸保全施設の復旧・整備については、国の災害査定が平成 23 年 12 月 23 日で全て終了しました。平成 24 年 3 月 8 日には金浜海岸（宮古市）で復旧工事に着手しており、今後も、早期復旧に向けて順次工事を発注し、平成 23 年度から概ね 5 年以内の復旧・整備を目指します。
- また、河川・海岸構造物の復旧等に当たっては、堤防から受ける圧迫感など景観への影響や、堤防建設に伴う自然環境への影響に配慮する必要があることから、「岩手県河川・海岸構造物の復旧等における環境・景観検討委員会」を設置し、環境・景観配慮に向けた基本的な考え方の中間とりまとめを行い、平成 24 年 3 月 27 日に公表しました。

○岩手県沿岸における海岸堤防高さの設定状況



◆放射性物質に係る安全対策と風評被害対策

■ 県民の安全・安心及び風評被害の防止を図るため、放射線の影響を受けやすいとされる子どもの健康と食の安全・安心を重点項目として、放射線量を測定、公表するとともに、適切な対策を速やかに講じています。

○放射線量等測定に係る対応方針（平成 23 年 8 月 31 日策定）

住環境等、教育施設等、農林水産物等及び産業活動について、放射性物質の影響を計画的に測定し、結果について県ホームページ等で速やかに公表しています。

○放射線量低減に向けた取組方針（平成 23 年 9 月 21 日策定）

県民が日常生活において受ける追加被ばく線量の目標を年間 1 ミリシーベルト以下とし、必要な低減措置の取組を支援しています。

○県産食材の安全確保方針（平成 23 年 10 月 4 日策定）

県内で収穫・漁獲された農林水産物について放射性物質濃度の測定を行い、国の定める基準値を超える値が検出された場合は市場に流通させない体制等を整備しました。

■ 放射線量等測定機器の整備を進め、監視体制の整備を進めるとともに、専門家による放射線の影響に関するセミナー等を開催し、放射線等に関する知識の普及を図っています。

○環境放射能測定機器の整備状況（平成 23 年度整備分）

・モニタリングポスト（固定式）	10 台
・ゲルマニウム半導体検出器	4 台
・NaI(Tl)シンチレーション式サーベイメータ	27 台
・ガンマ線スペクトロメータ	33 台

○専門家によるセミナー等の開催状況（平成 23 年度実施分）

・放射線セミナー開催	7 回
・いわてグラフ（全戸配布）掲載	2 回
・放射線に関するリーフレット配布	4 万部



客観指標

いわて復興インデックス報告書（第2回）[平成 24 年 5 月 24 日公表]

【防災】

●津波防災施設の整備率（沿岸）[H24.3 : 26.8%（整備率）]

項目		指標			データ					
		最新	前回(H24.2)	項目	最新	前回(H24.2)	差	単位	最新時点	範囲
防災	新しい津波防災の考え方に基づいた津波防災施設の整備率	26.8%	26.7%	整備率	17.9	17.8	0.1	km	H24.3	沿岸

平成 24 年 3 月末における「新しい津波防災の考え方」に基づいた津波防災施設の整備済総延長は 17.9km であり、整備率は 26.8%となっている。

【放射能】

●地表付近の放射線量（盛岡）[-] [H24.4 : +0.01（前回差）]

項目		指標			データ					
		最新	前回(H24.2)	項目	最新	前回(H24.2)	差	単位	最新時点	範囲
放射能	地表付近の放射線量(盛岡)[-]	+0.01	-	前回差	0.05	0.04	0.01	μ Sv/h	H24.4	市

盛岡（市役所、地上 50cm）における放射線量は、概ね 0.03～0.05 マイクロシーベルト/時間で推移しており、平成 24 年 4 月は前回から 0.01 増の 0.05 マイクロシーベルト/時間であった。なお、数値の増加は、雪解けに伴う放射線の遮蔽効果消失の影響も考えられる。

●地表付近の放射線量（一関）[-] [H24.4 : -0.03（前回差）]

項目		指標			データ					
		最新	前回(H24.2)	項目	最新	前回(H24.2)	差	単位	最新時点	範囲
放射能	地表付近の放射線量(一関)[-]	-0.03	-	前回差	0.14	0.17	-0.03	μ Sv/h	H24.4	市

一関（一関市役所、地上 50cm）における放射線量は減少傾向にあり、平成 24 年 4 月は前回から 0.03 減の 0.14 マイクロシーベルト/時間であった。

県民意識

復興意識調査

◇災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

(1) 重要度

重要が8割強 (83.1%)

○県全域では、「重要である」が71.2%、「やや重要である」が11.9%となっており、重要（「重要である」＋「やや重要である」）が83.1%となっている。

○地域別では、重要（「重要である」＋「やや重要である」）の割合が最も高いのが沿岸南部で85.7%となっている。

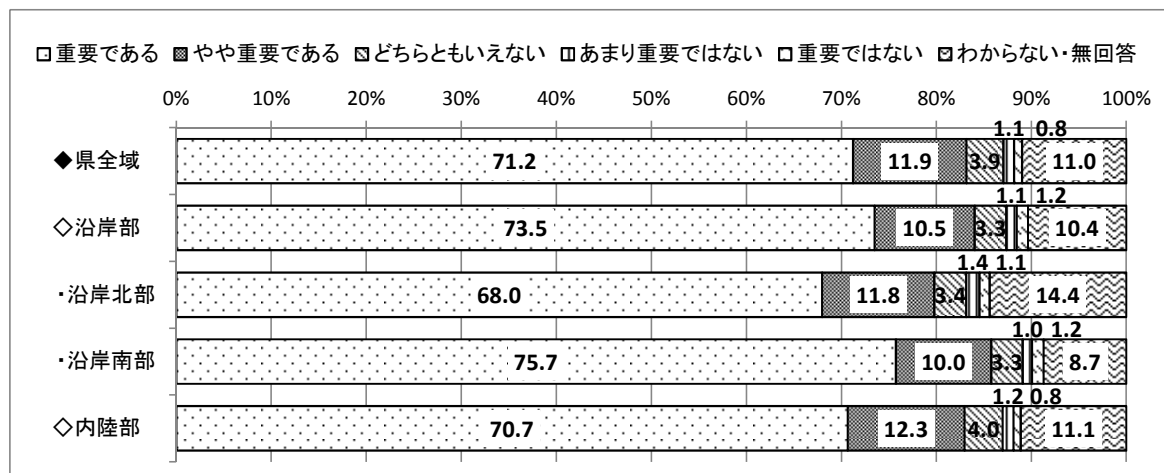
(2) 進捗への実感

遅れているが5割弱 (47.6%)

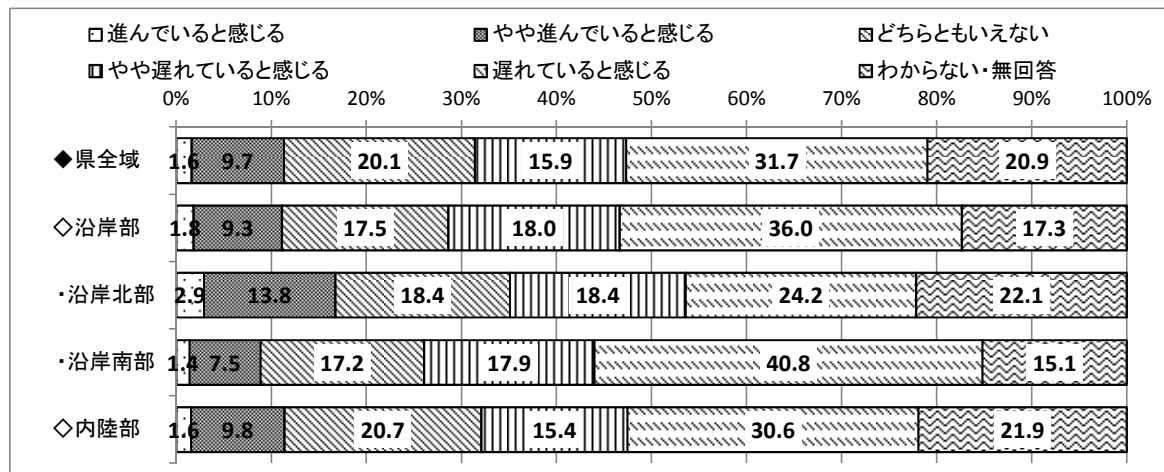
○県全域では、進んでいる（「進んでいると感じる」＋「やや進んでいると感じる」）の割合が11.3%となっており、遅れている（「やや遅れていると感じる」＋「遅れていると感じる」）の47.6%を大きく下回っている。

○地域別では、遅れている（「やや遅れていると感じる」＋「遅れていると感じる」）の割合が最も高いのが沿岸南部で58.7%となっている。

《重要度》



《進捗への実感》



◇防潮堤や防波堤などの整備

(1)重要度

重要が9割弱 (85.5%)

○県全域では、「重要である」が72.1%、「やや重要である」が13.4%となっており、重要（「重要である」+「やや重要である」）が85.5%となっている。

○地域別では、重要（「重要である」+「やや重要である」）の割合が最も高いのが沿岸南部で88.1%となっている。

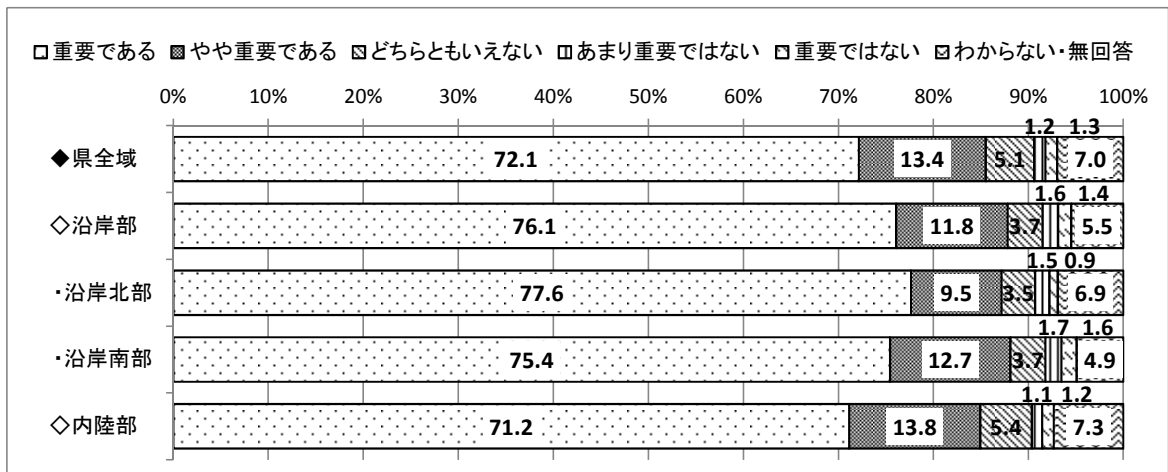
(2)進捗への実感

遅れているが5割強 (54.8%)

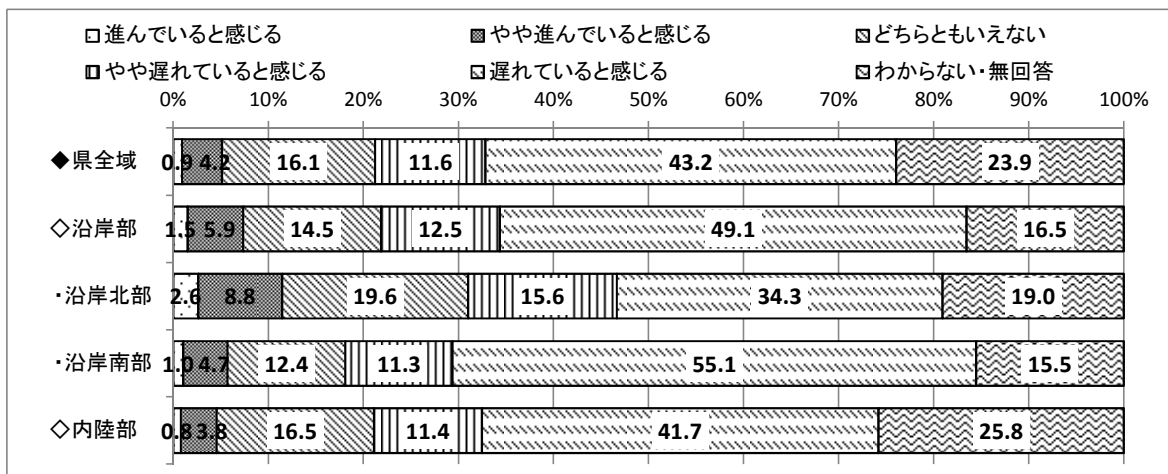
○県全域では、進んでいる（「進んでいると感じる」+「やや進んでいると感じる」）の割合が5.1%となっており、遅れている（「やや遅れていると感じる」+「遅れていると感じる」）の54.8%を大きく下回っている。

○地域別では、遅れている（「やや遅れていると感じる」+「遅れていると感じる」）の割合が最も高いのが沿岸南部で66.4%となっている。

《重要度》



《進捗への実感》



◇放射能への安全対策

(1)重要度

重要が8割強 (81.0%)

○県全域では、「重要である」が71.1%、「やや重要である」が9.9%となっており、重要（「重要である」+「やや重要である」）が81.0%となっている。

○地域別では、重要（「重要である」+「やや重要である」）の割合が最も高いのが内陸部で82.4%となっている。

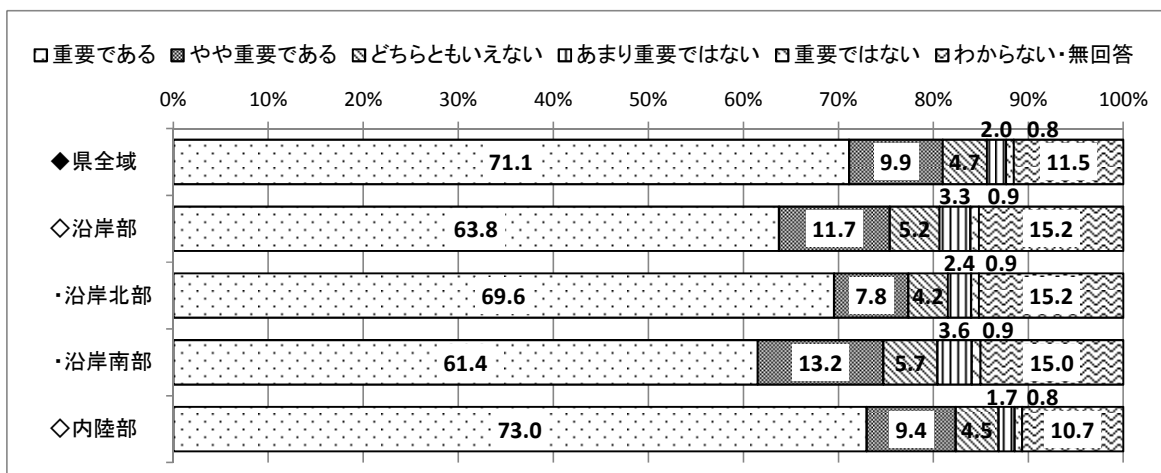
(2)進捗への実感

遅れているが5割弱 (49.9%)

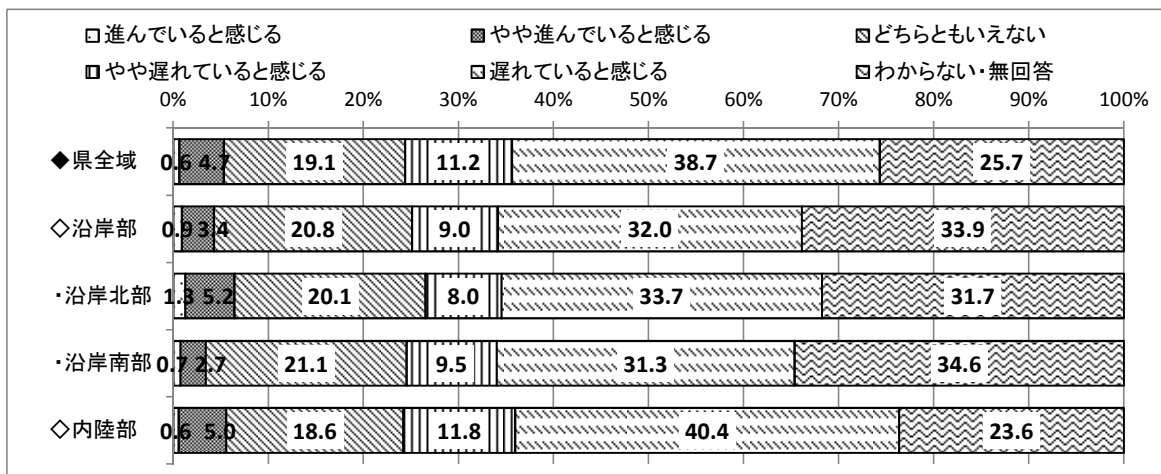
○県全域では、進んでいる（「進んでいると感じる」+「やや進んでいると感じる」）の割合が5.3%となっており、遅れている（「やや遅れていると感じる」+「遅れていると感じる」）の49.9%を大きく下回っている。

○地域別では、遅れている（「やや遅れていると感じる」+「遅れていると感じる」）の割合が最も高いのが内陸部で52.2%となっている。

《重要度》



《進捗への実感》



◇震災の記憶を未来に語り継ぐための取組

(1) 重要度

重要が9割弱 (87.3%)

○県全域では、「重要である」が71.0%、「やや重要である」が16.3%となっており、重要（「重要である」＋「やや重要である」）が87.3%となっている。

○地域別では、重要（「重要である」＋「やや重要である」）の割合が最も高いのが沿岸南部で89.5%となっている。

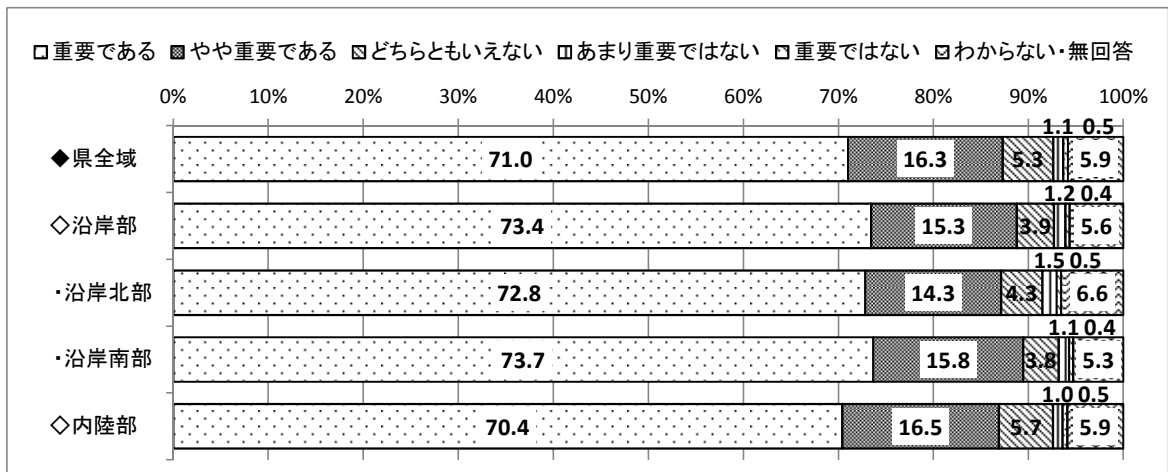
(2) 進捗への実感

遅れているが3割弱 (25.0%)

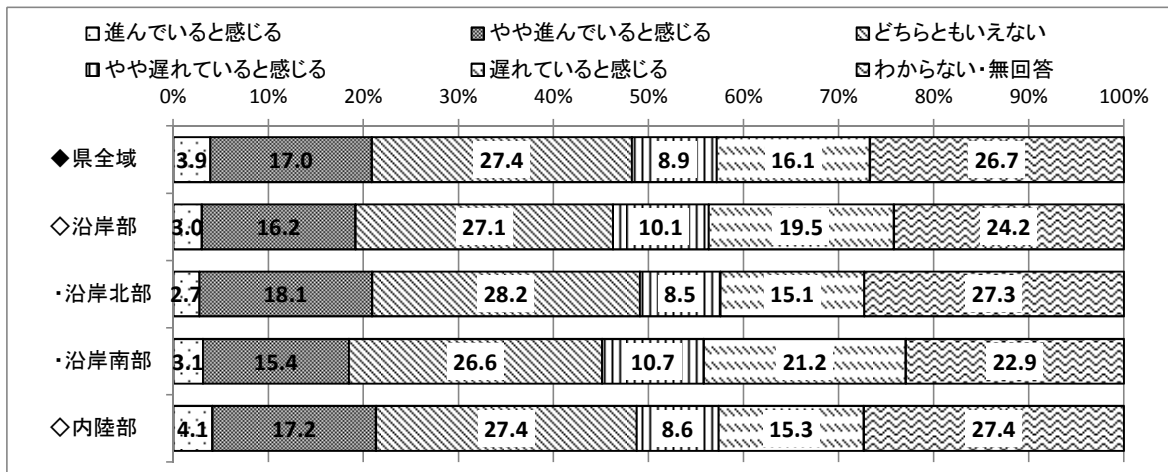
○県全域では、進んでいる（「進んでいると感じる」＋「やや進んでいると感じる」）の割合が20.9%となっており、遅れている（「やや遅れていると感じる」＋「遅れていると感じる」）の25.0%を下回っている。

○地域別では、遅れている（「やや遅れていると感じる」＋「遅れていると感じる」）の割合が最も高いのが沿岸南部で31.9%となっている。

《重要度》



《進捗への実感》



「安全」の確保

Ⅱ 交通ネットワーク

取組の基本的考え方

災害時等の確実な緊急輸送や代替機能を確保した信頼性の高い道路ネットワークの構築や、救護活動や人員輸送を支える港湾や空港、鉄道の機能強化により、災害に強い交通ネットワークの構築を進める。

<現状と課題>

「交通ネットワーク」の分野においては、道路・河川・橋梁などの災害復旧を中心とした事業を実施してきたところであり、平成23年度中間目標に対する進捗は12指標全てで「計画以上」、「順調」となっている一方、平成23～25年度（第1期）目標に対する進捗率が「80%以上」となっている指標はなく、災害に強い交通ネットワークの構築は、今後、取組の具体化が進む状況にある。

こうした中、「復興意識調査」においては、「災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備」が「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」は4割強、「JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧」について「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」が6割弱となっており、特に沿岸南部では、いずれの項目も半数を超える方が遅れと感じている。

なお、「復興意識調査」における復旧・復興に向けた優先施策では、「災害に強い交通ネットワークの構築」が5位となっているとともに、「JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧」に対する復興促進ニーズ度は29項目中8番目と高い位置にある。

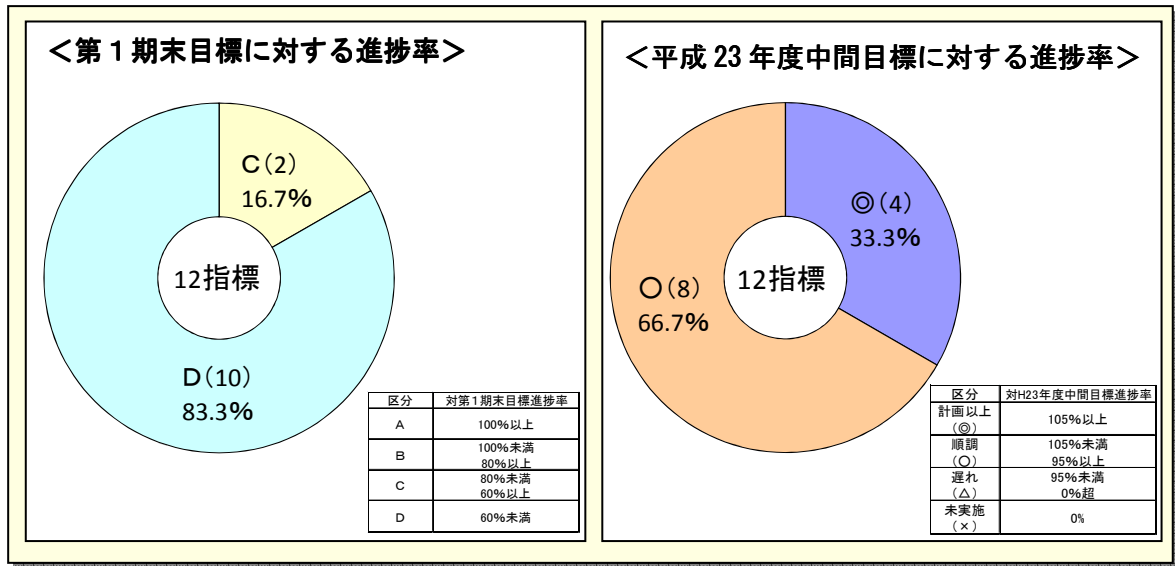
今後、復興道路整備など復興事業に本格的に着手する予定であり、復興実施計画に基づく事業を、迅速かつ着実に整備を進めていくことが必要である。

さらに、被災者の生活再建や被災事業者の事業再建を具体的に検討するために必要となる交通ネットワークの整備予定や整備状況を分かりやすく、きめ細かに提供する必要がある。

事業進捗

復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況（平成23年度）[平成24年4月26日公表]

- ① 第1期末目標の進捗率が「80%以上」はなし
- ② 平成23年度中間目標の進捗率が「順調」以上は「橋梁の補修（復興道路整備事業（橋梁耐震化等）」や「道路法対策（復興支援道路整備事業（災害防除）」など12指標（100.0%）



主な取組

復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成24年6月）[平成24年6月21日公表]

◆復興道路の整備

- 「復興道路」については、3年間での重点投資、5年以内の全線開通を国に強く要望してきたところ、国の平成23年度第3次補正予算で、県が要望していた全ての区間が新規事業化され、本県に約607億円（事業費）が配分されました。
- 国の平成24年度予算においても、本県に約836億円（事業費）が配分されました。
- 国との共催により平成23年11月20日に「復興道路着工式」を開催したほか、早期完成に向けて、国と県、関係市町村による「復興道路会議」を開催しています。
- 国では、三陸沿岸道路の整備促進に向けた体制強化を図るため、平成24年4月に南三陸国道事務所を開所したほか、復興道路の路線や区間ごとの事業進捗に応じて、設計説明会や中心杭の設置式などを順次開催し、一日も早い復興道路の完成に向けて日々全力で動いています。
- 県では、「復興道路整備促進連絡調整会議」の場で埋蔵文化財調査や保安林解除等の関係機関協議の迅速化を図るとともに、平成24年2月から「復興道路整備促進対策室」を設置して復興道路に関する窓口を明確化し、国が関係機関との協議を円滑に進められるよう、各種必要な連絡・調整を行っています。
- また、3月30日に策定した「復興道路を核とした道路施策の取組方針」に基づき、県内の物流や観光、医療に対する支援のほか、通勤・通学の日常生活やまちづくりなど、復興道路の整備効果を最大限に波及させるための道路整備に取り組んでいます。

○復興道路整備状況（平成 24 年 5 月 31 日現在）

路線名	計画延長 (km)	供用中		供用中+事業中	
		延長 (km)	率 (%)	延長 (km)	率 (%)
三陸沿岸道路	213	48	22 %	213	100 %
東北横断自動車道釜石秋田線	80	30	38 %	80	100 %
宮古盛岡横断道路	100	1	1 %	66	66 %
合 計	393	79	20 %	359	91 %

客観指標

いわて復興インデックス報告書（第2回）[平成 24 年 5 月 24 日公表]

【交通】

●交通事故件数（沿岸）[-] [H24.3 : **-5.9%**（前年同月比）]

項目		指標			データ					
		最新	前回(H24.2)	項目	最新	前回(H24.2)	差	単位	最新時点	範囲
交通	交通事故件数[-]	-5.9%	-4.2%	前年同月比	32	62	-30	件	H24.3	沿岸

平成 24 年 3 月における沿岸部の交通事故件数は 32 件であり、前年同月比で 5.9%減となった。

県民意識

復興意識調査

◇災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備

(1) 重要度

重要が9割弱 (87.9%)

○県全域では、「重要である」が74.2%、「やや重要である」が13.7%となっており、重要（「重要である」+「やや重要である」）が87.9%となっている。

○地域別では、重要（「重要である」+「やや重要である」）の割合が最も高いのが沿岸南部で92.7%となっている。

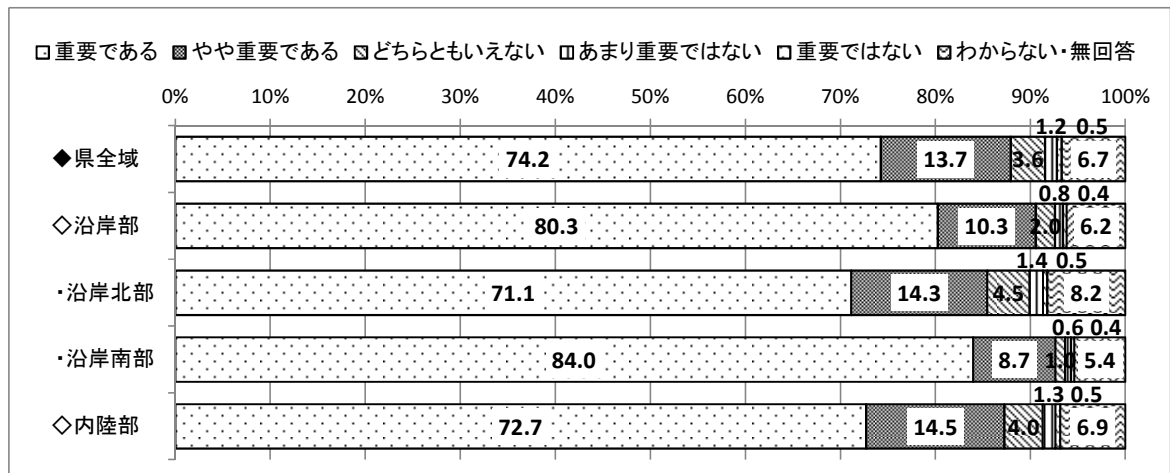
(2) 進捗への実感

遅れているが4割強 (42.5%)

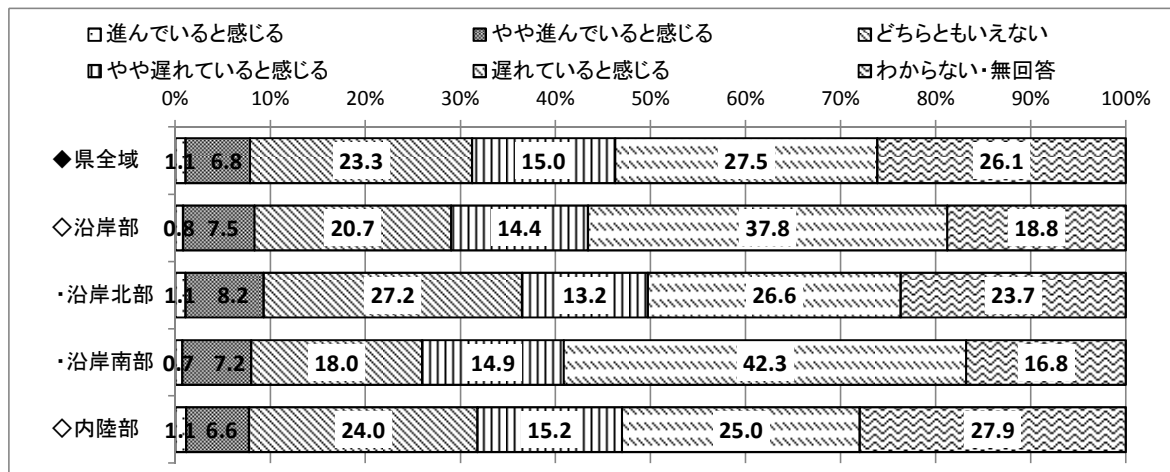
○県全域では、進んでいる（「進んでいると感じる」+「やや進んでいると感じる」）の割合が7.9%となっており、遅れている（「やや遅れていると感じる」+「遅れていると感じる」）の42.5%を大きく下回っている。

○地域別では、遅れている（「やや遅れていると感じる」+「遅れていると感じる」）の割合が最も高いのが沿岸南部で57.2%となっている。

《重要度》



《進捗への実感》



◇JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧

(1) 重要度

重要が8割強 (82.6%)

○県全域では、「重要である」が67.9%、「やや重要である」が14.7%となっており、重要（「重要である」+「やや重要である」）が82.6%となっている。

○地域別では、重要（「重要である」+「やや重要である」）の割合が最も高いのが沿岸北部で84.4%となっている。

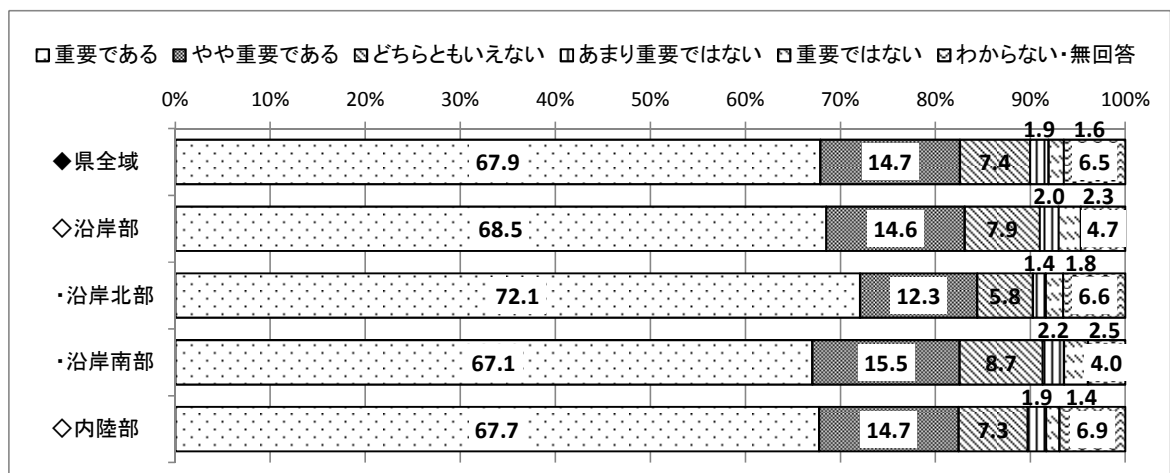
(2) 進捗への実感

遅れているが6割弱 (56.8%)

○県全域では、進んでいる（「進んでいると感じる」+「やや進んでいると感じる」）の割合が7.9%となっており、遅れている（「やや遅れていると感じる」+「遅れていると感じる」）の56.8%を大きく下回っている。

○地域別では、遅れている（「やや遅れていると感じる」+「遅れていると感じる」）の割合が最も高いのが沿岸南部で71.8%となっている。

《重要度》



《進捗への実感》

